

# 平成28年度 職員提案応募用紙

受理番号	28-005
------	--------

<b>標 題</b>	消火系器具「双口接手」について	
<b>提案を総括すべき課</b>	消防本部警備課	
	<b>改善前</b>	<b>改善後</b>
	<p>現在消防本部警備課には「双口接手」が各ポンプ車及びはしご車ごとに1個配備され、各車両合計すると双口接手が11個積載されています。それらはどれも購入時の色(黄色)のままです。</p> <p>火災は昼夜を問わず発生し、ホースを延長後に通水し、消火しますが、特に建物火災時は、この双口接手を多くの隊が使用します。各ポンプ車等からホースを延長し、進入口及び開口部に双口接手を設置し、ホースを接続した後に消火及び進入します。多くの隊が同じような場所に双口接手を設置すると混在し、見分けが付きませんが、隊によってはシール等で独自に区別できるようになっています。しかし、放水圧等で反ってしまい、シールが隠れてしまいます。独自の工夫を施してない、理解してない他隊と混在したときは、本来結合したい双口接手と判断するのに時間を要し、ホースの結合が遅れてしまうと、ホースを誤って接続しかねません。</p> <p>去年度にはなりますが、実際に建物火災時に1つの開口部に複数の双口接手が設定され、本来は自隊の双口接手にホースを接続するところ誤って放水中の他隊の双口接手に接続してしまい、通水してしまったために自隊及び他隊に有効な放水圧力を得られなくなってしまった。</p>	<p>改善策としては双口接手に工夫を加えることです。まず購入時のままの色(黄色)を変えることで、現在各署ごと色付きのホースが配備されており、この色を参考に双口接手も本署は緑、西分署は黄色、大根分署は青、南分署はオレンジ、鶴巻分署は紫とスプレー等で塗装します。そうすれば、接近して文字で判断するより遠目から見ても色で識別でき、どこから見ても識別できます。</p> <p>また、火災は昼夜を問わず、発生することから暗中でも確認できる必要があります。ここでもホースを参考にし、ホース金具取付部(メス金具部分のゴム)に蓄光を備えているホースがあることから双口接手もシールで蓄光を備えます。</p>
	<b>改善効果</b>	
	<p>「改善後」と重複してしまいましたが、遠目から双口接手のどの部分を見ても識別でき、判断による時間短縮及び誤接続を防止することが見込まれます。接続部の蓄光ですが、「改善後」はシールを貼ると記入しましたが、廃棄ホース等の余ったメス金具の蓄光ゴムを再利用すれば、経費削減につながる。今回の購入額はスプレーと蓄光シールで1000円前後でした。</p>	